

# ふじみサラダボール子育て情報

「予測できない時代に向けて」

令和7年2月19日号



板橋富士見幼稚園



## 幼児期からの学び

すべての人の持続可能な社会を創生するために、令和3年に「日本型学校教育」のあり方について、中央教育審議会から答申がありました。その中で「質の高い幼児教育」の取り組みについては、幼児期に多様な体験や経験の機会をもち、多面的な学びをしておくことを求められています。つまり、早期的な知識の詰め込みや習熟を目的とした技能訓練の時代から、自ら興味関心をもって体験を積み上げていく時代へと変化しているのです。その積み上げこそが、将来の人生の豊かさを決定づけると言われています。

豊かな自然環境は、子どもたちの主体的・自発的な力を引き出してくれる場です。自然の中での発見・驚き・不思議といった体験を子ども同士が語り合い、考えや感動を共有していくことで、様々な考えがあることに気づいていきます。そこで新たな思考が芽生え、やがて自分は何ができるのかを明確に感じ取ることができるようになっていきます。こうした遊びの中で「知る」ことを学んだ多様な体験や経験は、小学校以降の学習の学びに繋がっていきます。幼児期は、自然の中での体験を沢山味合わせてあげてほしいと思います。

富士見幼稚園の園庭には、みかんの木が数本あります。5月になると去年園庭で羽化したアゲハ蝶が舞い戻ってきて、自分の育った木に卵を生みつけます。子どもたちは、「アゲハ蝶の卵だ！」と歓声をあげ、大切に育てようとします。昨年の経験の循環の始まりです。子どもたちの保育は、日々こうして四季の循環を通して、学びだすような体験と経験を味わい、多様な知識を身に付けていくのです。遊びや出会いは、生活の循環の中に潜むドラマです。

2月3日 節分集会：

幼稚園に鬼がやってきました！みんなで豆まきをして鬼を追い払い無病息災を願いました。

